

令和5年度農地中間管理事業評価委員会報告書

令和5年5月26日に実施した令和4年度農地中間管理事業評価委員会における各評価委員の意見及び評価について、下記のとおり報告します。
評価項目の括弧内のアルファベットは、各委員の評価（A, B, Cの3段階評価）です。

記

- 1 令和4年度農地バンク事業の実績について（評価：B, A, A, A, A）
 - ・ 令和4年度の実績 963.7ha は、農地バンク事業が実績を上げていていることを示すものであり、達成率96.4%は高く評価することができる。評価Aが妥当であるとの判断も可能だが、目標面積1000haに到達していないことから、評価Bを付加した。
 - ・ 年度固有の状況、地域ごとの特徴など要因を分析して次年度の取組に活かすことが望まれる。
 - ・ 目標面積1000ha 近くの実績を上げている。令和4年度は野菜の面積が少し伸びたように見える。
 - ・ 静岡県は樹園地が多い中で実績を上げている。
 - ・ 人の農地を動かすことは大変なことと思うが、よく頑張っている。
- 2 農地バンク事業の推進体制について（評価：A, A, A, A, A）
 - ・ 農業振興公社を中心とした静岡県の農地バンク事業の推進体制は適切に機能していると判断できる。
 - ・ 各農林事務所、土地改良区への駐在及びび人・農地調整員の配置は妥当であり、事業推進を支えている。
 - ・ 静岡県、JA 静岡中央会、静岡県農業会議、静岡県土地改良事業団体連合会との連携を核とした推進体制が継続的に機能している。
 - ・ 人・農地調整員を設置して広域のマッチングを実施している点は、高く評価することができる。
 - ・ 地域によって対応が難しいと思うが、10年、50年、100年と大きな目標の中で、焦らずに取り組んでいってほしい。
- 3 農地バンク事業の推進方法について（評価：A, A, A, A, A）
 - ・ 目標面積1000ha に対して新規集積を目標設定している。
 - ・ 担い手の農地利用を高めるための方策として、市町ごと及び広域段階での推進体制を構築しており、農地整備事業と連動した活動も機能している。
 - ・ 広報に注力し、活動表彰事業を行うなど、事業を広範な視点から推進している。
 - ・ 市町の農業構造を分析し、その結果を踏まえた推進方法がとられている。

4 その他

- ・ 農業経営基盤強化促進法の一部改正に伴う協議の場の設置、地域計画の策定などに的確に対応することが求められる。
- ・ 農地バンクに集積される土地に係る情報の維持管理などの業務が増えることが予想される。将来の事業見直しを検討しておく必要があるだろう。
- ・ 今後、「地域計画」が最優先されることに伴い、事業の進め方にどのような影響が出るのか注意深く観察していきたい。
- ・ 地権者の数が増加しているので、地代支払業務などの管理業務にどのように対応していくかが今後の課題となるだろう。

令和5年5月31日

令和5年度農地中間管理事業評価委員会

委員長

鈴木 滋考